

HPV検査単独法による 子宮頸がん検診資材を用いた 検診実施施設説明用 補助スライド

令和6-7年度厚生労働科学研究費厚生労働行政推進調査
事業費補助金（がん対策推進総合研究事業）

HPV検査単独法による子宮頸がん検診に関する普及啓発
に係る医療機関向けツールの開発のための研究班
（研究代表者 横浜市立大学産婦人科 宮城悦子）

HPV検査単独法による子宮頸がん検診資材を用いた 検診実施施設説明用 補助スライド

この補助スライドは、令和6-7年度 厚生労働科学研究費 厚生労働行政推進調査事業費補助金（がん対策推進総合研究事業）により、HPV検査単独法による子宮頸がん検診に関する普及啓発に係る医療機関向けツールの開発のための研究班（研究代表者 横浜市立大学産婦人科 宮城悦子）が作成したものです。自施設におけるHPV検査単独法による子宮頸がん検診の理解と普及・啓発以外の目的で使用される場合は、必ず出典を明記して下さい。リーフレット原本は、下記の国立がん研究センターのウェブサイトよりダウンロードできます。

リーフレットのデータダウンロードはこちら



The background features several large, semi-transparent green geometric shapes, including polygons and hexagons, scattered across the white page. A thin green line forms a partial rectangular frame around the text.

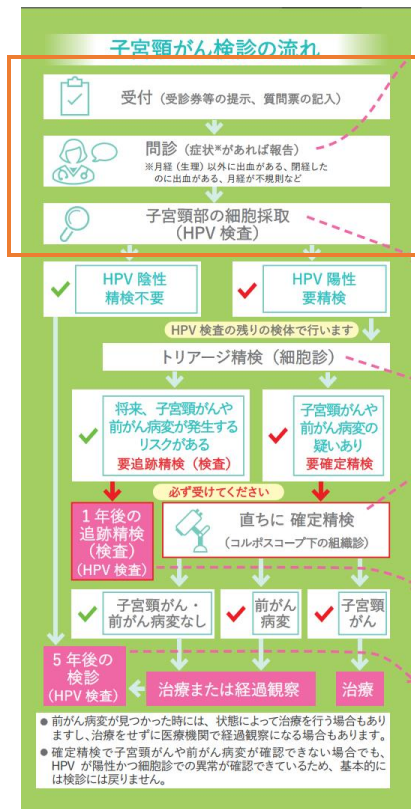
Part 1

受付から事前説明

リーフレット全体図



↓リーフレット参照



問診と確認



受付（受診券等の提示、質問票の記入）



問診（症状※があれば報告）

※月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など



子宮頸部の細胞採取（HPV 検査）

子宮頸がんになる方は
30～50歳代が多い



子宮頸がんについて

- ☑ わが国では女性のがんの中でも、かかる人が多く、特に30～50歳代で多いがんです。
- ☑ HPV検査単独法による子宮頸がん検診は、HPV（子宮頸がんを引き起こすウイルス）に感染している方を見つけて細胞診を行い、がんや前がん病変を見つけることにより、子宮頸がんの罹患（かかること）を防ぐことができます。検診は自覚症状がないうちに受けることが大事です。

HPV単独検診法は
「子宮頸がんになる人を減らせる」
ことが科学的に証明済み。
国も検診を推奨している。

子宮頸がん検診(HPV検査単独法) を受ける前に知っておくこと

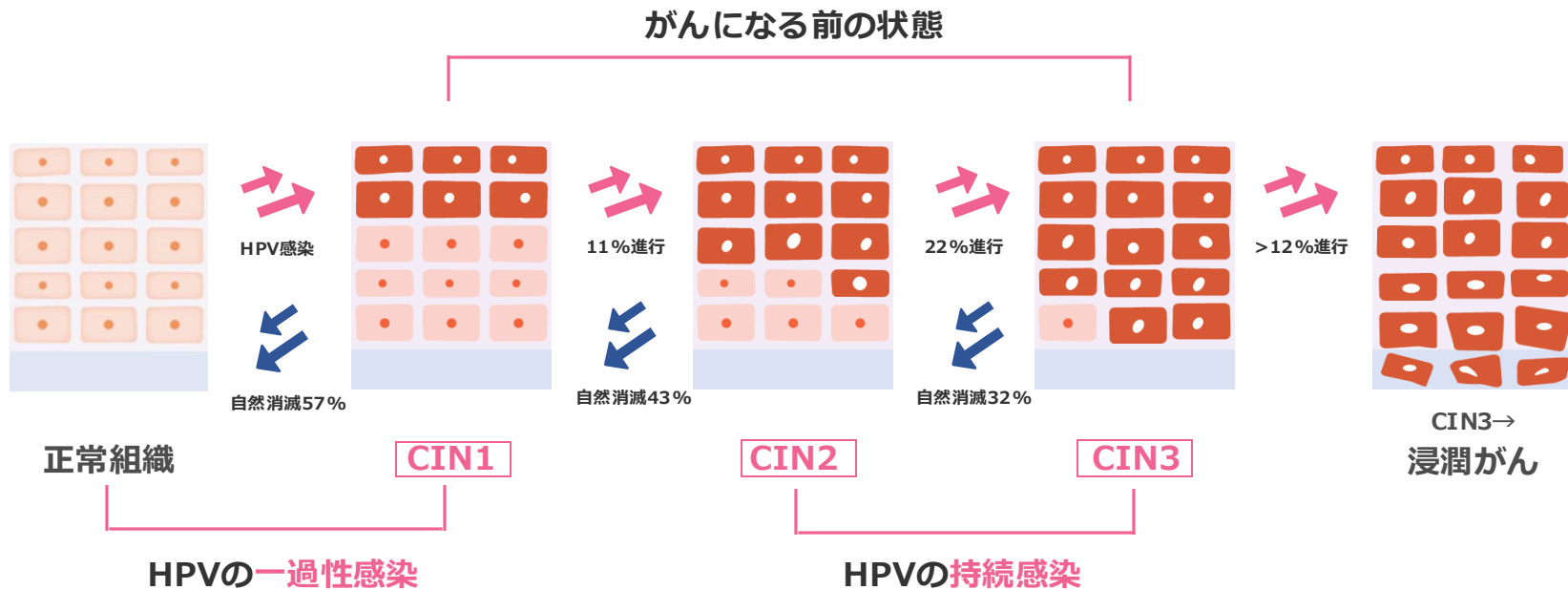
HPV 検査単独法による子宮頸がん検診は「子宮頸がんの罹患率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診として国が推奨しています。早期発見、治療で大切な命を守るために、30～60歳の女性は5年に1度、繰り返し HPV 検査単独法による子宮頸がん検診を受診し、「要確定精検」「要追跡精検（検査）」という結果を受け取った場合には必ず本リーフレットに記載した該当する検査を受けるようにしてください。

30～60歳まで
5年に1回繰り返し受ける

30～60歳、5年に1回、HPV検査を繰り返し受けることで、子宮頸がんにかかることを防ぐことができます

HPV 検査での子宮頸がん検診は、受けすぎると不利益が大きくなりますので、必ず5年に1度、繰り返しの受診を守ってください。また、5年以上検診間隔が空いてしまうと子宮頸がんを防ぐ効果が下がってしまいますので、推奨された年齢と間隔を守りましょう。

HPV単独検診には **良いこと（利益）** があります。



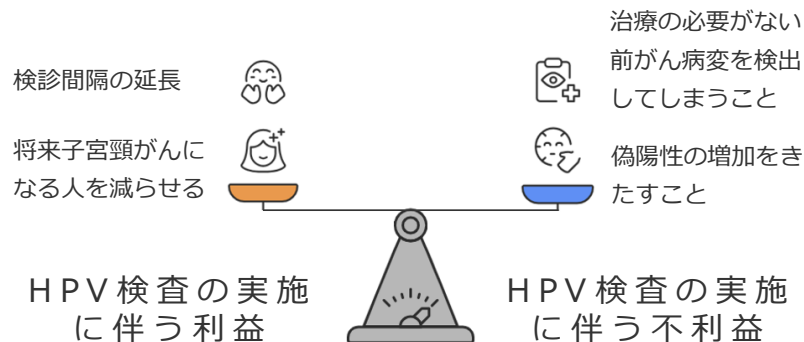
HPV検査単独による子宮頸がん検診には、利益（子宮頸がんにかかることを防ぐことができます）と不利益（偽陰性、偽陽性など）があります。偽陰性とは、がんや何段階かある前がん病変のうち、がんに近い段階の病変があるのに見つけれられないこと。偽陽性とは、これらの病変がない、またはこれらの病変が発生しないのに「要追跡精検（検査）」や「要確定精検」と判定されることです。

HPV検査単独法による子宮頸がん検診には、**利益（子宮頸がんにかかることを防ぐ）と不利益（偽陰性、偽陽性など）**があります。

- ・ **偽陰性**：がんや同段階がある前がん病変のうち、がんに近い段階の病変があるのに見つけれられないこと。
- ・ **偽陽性**：これらの病変がない、またはこれらの病変が発生しないのに「要追跡精検（検査）」や「要確定精検」と判定されること。

**さらに検査によって出血などのトラブルが
起こる可能性がある事にも注意が必要です。**

HPV検査による利益と不利益のバランス



HPV検査（ハイリスクHPV検査）は、感度の高さから検診に導入を検討している検診手法であるが、利益と不利益を考える必要がある。

※日本産科婦人科学会HPより改変引用
https://www.jsog.or.jp/wp-content/uploads/files/jsogpolicy/HPV_Part1_4.pdf

HPV（子宮頸がんを引き起こすウイルス）が陽性であっても自然に消失することもありますし、前がん病変の中には放置しても治癒してしまうものも多いため、結果的に unnecessary 検査や治療を受けなければならない場合もあります。

- ・ がんの原因のHPVウイルスが陽性になっても自然に消えることがある。
- ・ 前がん状態が見つかって、中には放置しても治ってしまうものもある。
- ・ 検診を受けたせいで、 unnecessary 検査や治療を受けなければならない



30～60歳まで5年に1回繰り返し受ける

The slide features a white background with several large, semi-transparent green geometric shapes in the corners. These shapes include triangles and polygons of various sizes and orientations, creating a modern, abstract design. A thin green line forms a partial rectangular frame around the text.

Part2

問診のポイント 共有しておく情報

↓リーフレット参照

子宮頸がん検診の流れ



受付（受診券等の提示、質問票の記入）



問診（症状※があれば報告）

※月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など

気になる症状がある場合

月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など、気になる症状がある場合は問診の際に、医師に必ずお伝えください。不正出血が疑われる症状がある場合は子宮頸がん検診を待たず、すぐに婦人科を受診してください。

検診が受けられないかもしれない方

現在婦人科で治療中や経過観察中の方は、がん検診を受けられない場合がありますので、主治医にご相談ください。また、性交経験が一度もない方は HPV の感染の可能性も子宮頸がんにかかる可能性も低いので、利益は大きくありません。



月経以外に出血
していないか？

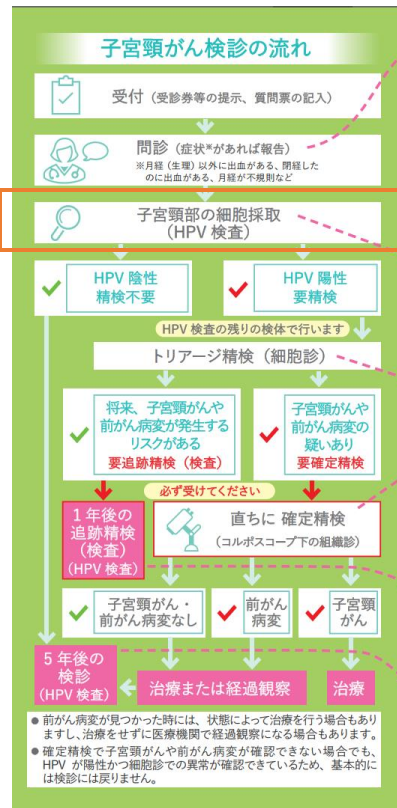


子宮頸部の病気の治療中？
年1回以上病院で検査？



生まれてから1回も
性交経験がない？

↓リーフレット参照



HPV検査

子宮頸部の細胞採取 (HPV 検査)

子宮頸部 (子宮の入り口) を、先にブラシのついた専用の器具で擦って細胞を取り、HPV (子宮頸がんを引き起こすウイルス) の有無を調べる検査です。

*月経 (生理) 中は避けて検査を受けてください。

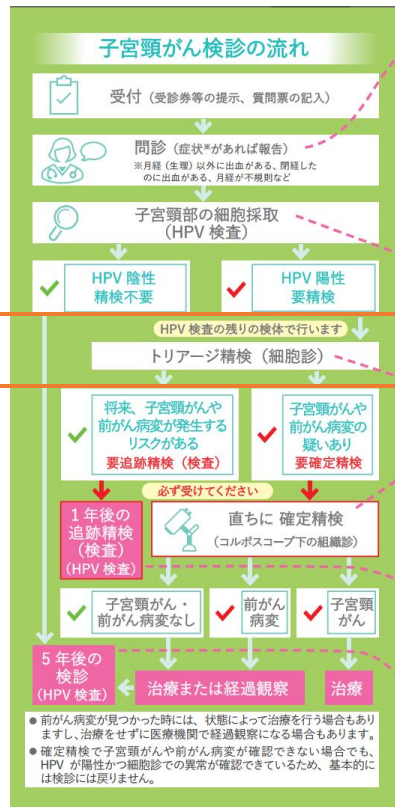


↓リーフレット参照

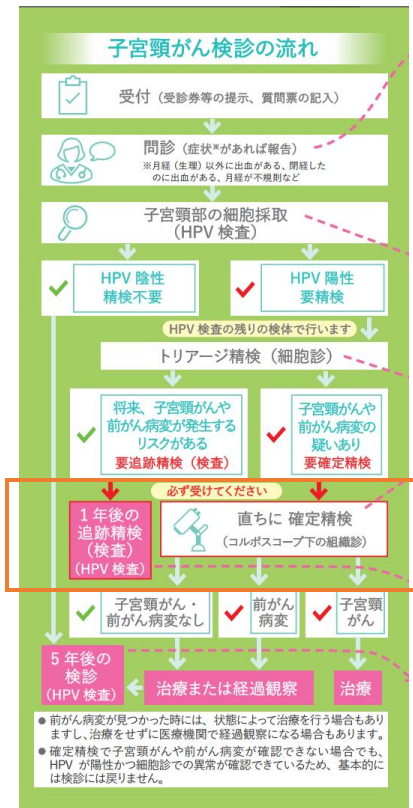
トリアージ精検 (HPV陽性の場合) 要精検

トリアージ精検（細胞診）

HPV 検査のために採取した細胞の残りをを使って、がん細胞など異常な細胞がないかを顕微鏡で調べる検査です。この検査のために再度医療機関を受診する必要はありません。



確定精検 追跡精検



確定精検はコルポスコープ下の組織診

トリアージ精検（細胞診）で異常が発見されたら、コルポスコープ（腔拡大鏡）を使って子宮頸部を詳しく観察します。異常な部位が見つかれば、組織を一部採取してがんや前がん病変がないかを診断します。



追跡精検（検査）は1年後のHPV検査

要追跡精検者は、検診の時点では子宮頸がんや前がん病変が発症している可能性は低いのですが、HPV 陽性が継続すると発症の可能性が高くなりますので、5年待たずに、1年後に検診の枠組みで HPV 検査を受けてください。

1

市区町村の住民検診を受けられた方へ

- がん検診の精度管理のため、検診結果、及び精密検査の結果は市区町村へ報告されます。また最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも後日精密検査結果が共有されます。

個人情報保護法は適応されません。

2

子宮頸がん検診の目的

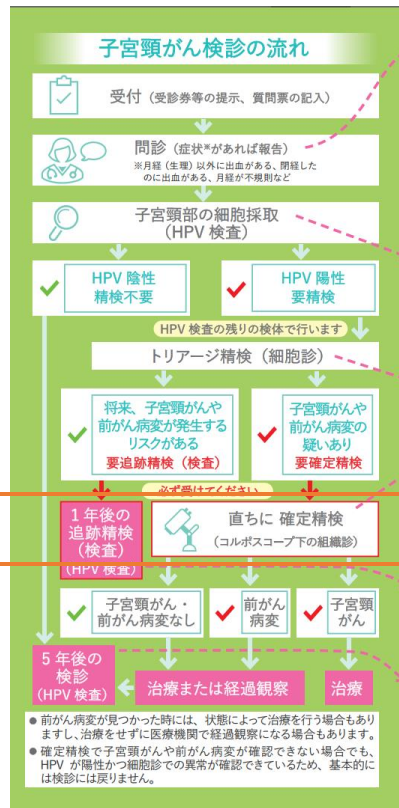
- 子宮頸がん検診は、子宮頸部の前がん病変と子宮頸がんの発見を目的としています。その他の疾患の発見は目的としていません。

何か症状がある方、心配なことがある方は婦人科を受診して別の検査を受けてください。

The slide features a white background with several large, semi-transparent green geometric shapes in the corners. These shapes include triangles and polygons of various sizes and orientations, creating a modern, abstract design. A thin green line forms a partial rectangular frame around the central text.

Part3

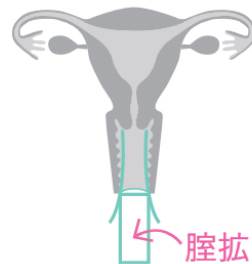
細胞診陽性時の精密検査に関して



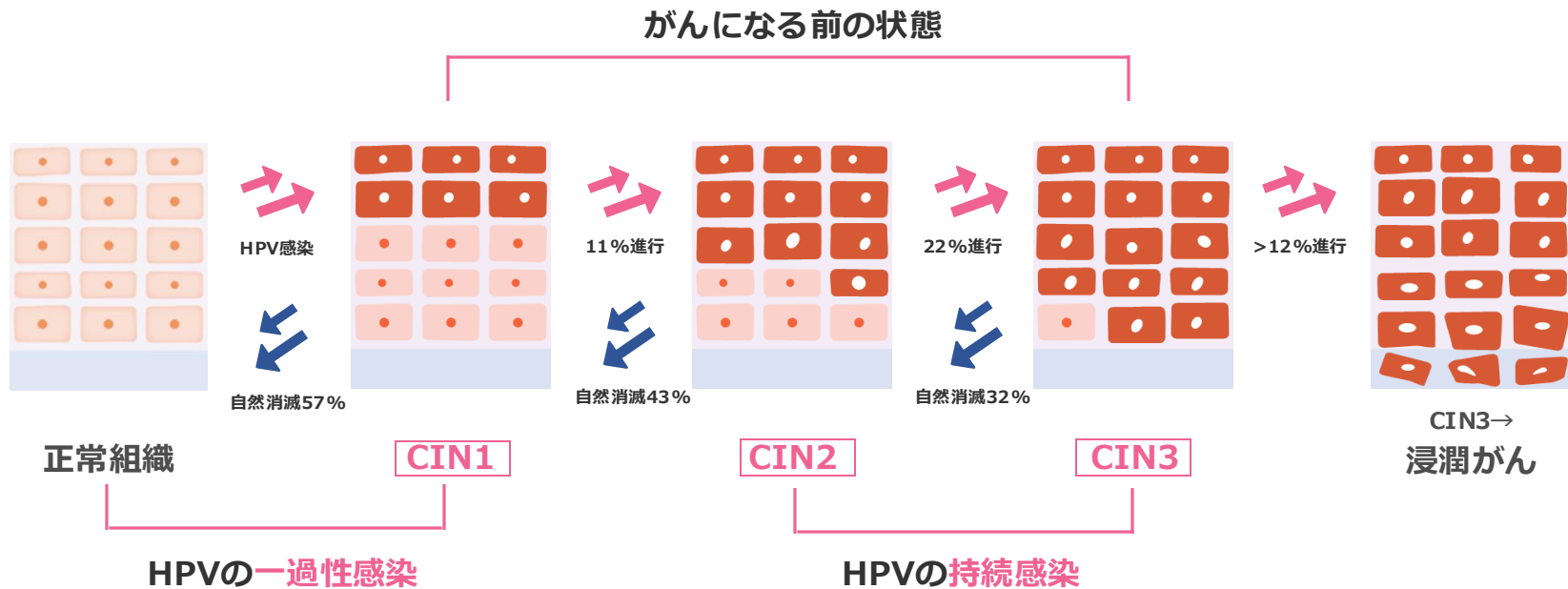
確定精検

確定精検はコルポスコープ下の組織診

トリアージ精検（細胞診）で異常が発見されたら、コルポスコープ（腔拡大鏡）を使って子宮頸部を詳しく観察します。異常な部位が見つかれば、組織を一部採取してがんや前がん病変がないかを診断します。



腔拡大鏡
子宮頸部を
腔拡大鏡で見る



子宮頸がん検診の流れ



気になる症状がある場合

月経(生理)以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など、気になる症状がある場合は問診の際に、医師に必ずお伝えください。不正出血が疑われる症状がある場合は子宮頸がん検診を待たず、すぐに婦人科を受診してください。

検診が受けられないかもしれない方

現在婦人科で治療中や経過観察中の方は、がん検診を受けられない場合がありますので、主治医にご相談ください。また、性交経験が一度もない方は HPV の感染の可能性も子宮頸がんにかかる可能性も低いので、利益は大きくありません。

子宮頸部の細胞採取 (HPV 検査)

子宮頸部(子宮の入り口)を、先にブラシのついた専用の器具で擦って細胞を取り、HPV(子宮頸がんを引き起こすウイルス)の有無を調べる検査です。



*月経(生理)中は避けて検査を受けてください。

トリアージ精検 (細胞診)

HPV 検査のために採取した細胞の残りをを使って、がん細胞など異常な細胞がないかを顕微鏡で調べる検査です。この検査のために再度医療機関を受診する必要はありません。

確定精検はコルポスコープ下の組織診

トリアージ精検(細胞診)で異常が発見されたら、コルポスコープ(拡大鏡)を使って子宮頸部を詳しく観察します。異常な部位が見つければ、組織を一部採取してがんや前がん病変がないかを診断します。

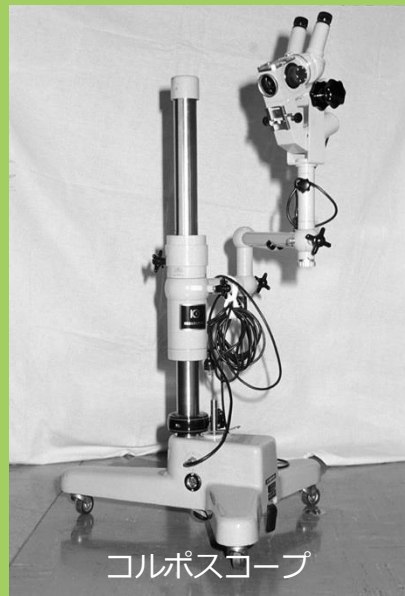


追跡精検(検査)は1年後の HPV 検査

要追跡精検者は、検診の時点では子宮頸がんや前がん病変が発症している可能性は低いのですが、HPV 陽性が継続すると発症の可能性が高くなりますので、5年待たずに、1年後に検診の枠組みで HPV 検査を受けてください。

30～60歳、5年に1回、HPV 検査を繰り返し受けることで、子宮頸がんにかかることを防ぐことができます。HPV 検査で子宮頸がん検診は、受けすぎると不利益が大きくなりますので、必ず5年に1度、繰り返しを受診を守ってください。また、5年以上検診間隔が空いてしまうと子宮頸がんを防ぐ効果が下がってしまいますので、推奨された年齢と間隔を守りましょう。

確定精検 コルポスコープ下の組織診



子宮体がんと子宮頸がん

